



映画「モンゴル野球青春記」の上映始まる 市内先行上映は7月7日が最終日



日本とモンゴルの国交樹立40周年記念映画「モンゴル野球青春記」の先行上映が6月8日から始まり、4日間で1,085人が映画を鑑賞しました。

舞台挨拶した武正晴監督は、「この映画を全国に広めていきたいので、フェイスブックなどで広くPRしてほしい。」とあいさつ。上映実行委員長の小泉隆一さん(84歳・那賀川町)は、「モンゴルにまた「野球」という種が、映画を通して成長している姿をみることができます。感動的な素晴らしい映画です。多くの方にご覧になっていただきたいです。」と話していました。

阿南市内での先行上映は、7月7日(日)が最終日です。
問い合わせは 同上映実行委員事務局(☎22-1297)へ

蒲生田海岸を美しく 300人のボランティアが清掃活動に汗



6月2日、蒲生田海岸で清掃活動が行われ、およそ300人のボランティアが、海岸に打ち上げられた海藻や流木、漂着ごみを回収しました。

この活動は、椿地域一帯の環境保護活動などに取り組むKIT賞賛推進会議などの呼びかけで行われたもので、今年で2回目。参加者は、ごみ袋を手に分けながらごみを拾い集め、汚れたペットボトルは一つひとつ丁寧に洗浄しました。同協議会海亀部会の鎌田武さん(84歳・桑野町)は、「皆さんの温かい心が蒲生田の海に向けられていることをうれしく思います。」と参加者の労をねぎらっていました。作業は午前9時から約2時間行われ、軽トラック5台分のごみを回収しました。

減少する島の宝を守る イシマササユリの生育調査と移植活動



伊島の固有種イシマササユリの生育調査が6月4日に行われ、伊島中学校生徒会や地域住民約30人が、島内4カ所の生息地で開花状況や個体数を調べました。

生育状態は良好でしたが、開花は例年より少し早め。一部の生息地で著しく減少していたため、全体では1,712本(昨年比△92本)と、昨年に比べ微減という結果になりました。生息地の一つ、カベヘラを調査した伊島老人会会長の神野弘子さん(85歳)は、「イシマササユリはかれんで甘い香りが特徴で、山中で静かに咲くその姿が愛らしく、島の宝として大切に守られています。」と誇らしげに花を愛でていました。6日には、新野高校生によるバイオ球根の移植活動が行われました。

笑いあり、感動ありの2時間 「週末よしもと」が阿南にやって来た!



今が旬の人気芸人たちが全国各地を訪れるお笑いツアー「週末よしもと・よしもとが阿南にやって来るよ!」が5月26日に市民会館で開催され、人気芸人たちによる漫才や新喜劇が上演されました。

前半に行われた漫才ショーには、5組の芸人が出演。関西と関東とのリアクションの違いをネタにしたボケとツッコミの応酬などが繰り広げられ、続いて行われた新喜劇では、茂造じいさんこと辻本茂雄さんの暴力的なツッコミが随所にさく裂。会場は笑い一色に包まれました。親子3人で訪れた島村佳歩さん(10歳・徳島市)は、「テレビで見るのとは違って迫力があり、とてもおもしろかったです。」と笑顔で話していました。

水防技術講習会に118人が参加 命をつなぐロープワークなどを学ぶ



水防技術を習得して災害時に役立ててもらおうと、国交省那賀川河川事務所による水防技術講習会が桑野川河川防災ステーションで行われ、消防団員や市内の災害応急復旧協定締結業者など118人が受講しました。

四国防災エキスパートの山本邦一さん(74歳)は、最近の水防活動における技術的課題として「少子高齢化サラリーマン化等による地域防災力の低下」「水防資・器材の調達」「水防工法等の継承」を取り上げ、水防技術習得の大切さを訴えました。実技講習では、人命救助に役立つロープワークや土のう作り、各種水防工法の技術指導が行われ、参加者は、防災エキスパートの指導に熱心に耳を傾けながら技術の習得に努めていました。

新野町に「ヘンロ小屋」が完成 お遍路さんを癒す地域のシンボルタワー



太龍寺から平等寺に向かう新野町西光寺の遍路道沿いに、市内で3棟目となる「ヘンロ小屋(名称:大根)」が完成し、6月15日に落成式が行われました。

取り組んだのは新野町西光寺と岡花地区の有志の皆さん。「四国八十八ヶ所ヘンロ小屋プロジェクト」を推進する鎌田武さん(84歳・桑野町)の働きかけで実現しました。設計は、建築家でもある近畿大学教授の歌一洋さん(65歳・大阪市在住)が担当し、建築の大部分は地元有志がボランティアで施工しました。世話人の鶴羽正喜さん(79歳)は、「小屋は地域のシンボル。お遍路さんには足を休めていただき、里山の景観を楽しんでほしいです。」と、完成の喜びを分かち合っていました。

蒲生田海岸にアカウミガメが初上陸! 産卵も確認



県内有数のアカウミガメ産卵地・蒲生田海岸で、5月28日にアカウミガメの上陸・産卵が確認されました。初上陸は、昨年に比べ3日遅れ(一昨年は6日遅れ)で、2頭の上陸と1頭の産卵が確認されました。

発見したのは、ウミガメ観察員の棚橋コズエさん(76歳・椿町)。午前5時頃、日課の上陸調査中に波打ち際にいるアカウミガメを見つけました。「体長1メートルほどの大型のアカウミガメでした。5月末までに上陸してほしいと思っていたのでひと安心です。今年もたくさん上陸してほしいです。」と棚橋さん。いよいよ始まった産卵シーンに胸を躍らせていました。

蒲生田海岸での調査は、今年で60年目を迎えました。

サンアリーナ温水プール 市民に親しまれ利用者50万人に到達



健康増進や水泳競技力向上など、子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の方に親しまれているサンアリーナ温水プールの利用者が、開館からおよそ9年で50万人に到達し、6月15日、記念セレモニーが行われました。

記念すべき50万人目となったのは、3年前から週に4回ほどのペースでプールに通っている福原正さん(63歳・桑野町)。50万人目になったことについて「夢みたいです。水泳は健康維持のために続けてきましたが、これを機に、さらに上手に泳げるようになりたいです。」と話していました。福原さんには、駆け付けた岩浅市長から花束と記念品が贈られました。